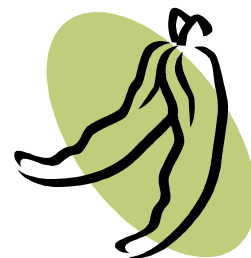


# おしゃべりサロン「相互塾」

(第86回)



老いも若きも大歓迎。Face to Face を大切に！

## 木綿と唐辛子にまつわる話

～日韓善隣友好の歴史が運んだもの～

日 時：平成19年3月26日(月) 午後7時～9時

場 所：調布市総合福祉センター 4階 視聴覚室(グリーンホール南隣)

語り手：李 進熙(リ シンヒ)さん (和光大学名誉教授)

木綿は室町時代に朝鮮からもたらされ、モンメンからモメンとなりました。その見返りに銅が輸出され、真鍮の食器や銅活字になり、15世紀の朝鮮社会を大いに発展させます。モメンははじめ綿布として輸入されますが、間もなく種や栽培法が伝わり、18世紀には日本社会の変革に大きく寄与します。衣服に革命が起こり、木綿の帆が普及すると北前船が活躍します。また、丈夫な綿糸で目の細かい網が作られ、沿岸漁業を飛躍的に発展させます。そうして小魚の佃煮が出現するのです。

唐辛子とタバコは17世紀初めに対馬から釜山に伝えられ、タバコは間もなく清国貿易の主役となります。唐辛子はキムチに入ることによって、朝鮮人の食生活を大きく変えました。白菜のキムチは20世紀の産物で、日本から伝えられました。サツマイモは18世紀の中頃朝鮮通信使が持ち帰り、飢餓から人々の生命を救いました。対馬では孝行芋とも呼ばれますが、朝鮮語ではコグマに訛りました。善隣友好の歴史が両国の生活や文化を豊かにしたのです。



会場に「相互塾」関連の運営費(資料、チラシ、ポスター、会場など)のために『カンパ』の箱を置いています。ご協力をお願いします。

【終了後懇親会(参加自由、実費3千円前後)を行います】

主 催：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

連絡先：森下 政信 (TEL&FAX 483-9993)

E-mail [mmasanob@sepia.ocn.ne.jp](mailto:mmasanob@sepia.ocn.ne.jp)